



万一に備えての引き渡し訓練

熊本地震から2年、東北大震災から7年の7月日が流れ、「もう大丈夫・・・」と安心している人も多いと思います。

しかし、災害はいつやってくるかわかりません。改めて気持ちを引き締める上で今回の児童引き渡し訓練を実施しました。

東日本大震災では、石巻市の大川小学校で、避難が遅れ全校107名中74名が犠牲になりました。東松島市の野蒜(のびる)小学校では、小学3年生の児童が同級生の親に引き渡された後、津波にのまれてなくなりました。

南小では、このような悲劇を繰り返さないように、避難訓練・引き渡しの確認を行っていきます。

以下、引き渡しが必要になった場合について対応を示します。

- ①安心安全メールで学校からの連絡を受ける。(集合場所、時間の確認を)
- ②安心安全メールを見たら、直ちに安全を確保しながら学校に行く。
- ③学校の集合場所で、説明を受け、6年生の保護者から順に子どもさんを教室に引き取りに行く。
- ④教室で、児童の名前と自分の関係を担任に伝え、子どもさんを引き取り安全なところに避難する。

今後は、このように対応していきます。

備えあれば憂い無しといえます。今回の訓練の様子をご家族でも、再度確認していただきお役立てください。



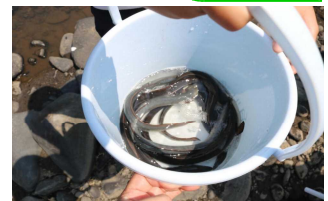
引き渡し確認中です

アユとウナギの稚魚を放流しました

4月のはじめ白川漁業協同組合の方から、稚魚の放流のお手伝いの依頼がありました。これを受けて、5月1日(月)11:00過ぎから川手橋の河原で、4年生から6年生までの40人が鮎とウナギの稚魚の放流をお手伝いしました。

はじめに白川漁業協同組合の方からアユやウナギの生態、釣り方や、採り方などの説明を聞き、鮎1万匹、ウナギ120匹を放流しました。「稚魚」と言うには、あまりにも大きくて(アユは15cm以上、ウナギは30cmほどの大きさ!!)、稚魚なので1~2cmぐらいと想像していた子どもたちは、バケツに入れて渡されたアユとウナギをみて、びっくりしていました。

ちょっと驚きながらも、放流した魚たちが、また大きくなってここに戻ってくるように「おおきなあれ」、「また戻っておいでね」と口々に声をかけて放流する子どもたちの素直さに心が温くなりました。



ウナギの稚魚(大きいです)



おおきな一れと放流

スクールカウンセラーが配置されました

5月7日(月)本校にスクールカウンセラー(以後SCと表記)の配置がありました。お名前は、「下田博子」先生です。毎月第1,2,3月曜日に菊池教育事務所から来校されます。

7日(月)の一斉下校前に、自己紹介をしてもらいました。「皆さんの心が疲れたときやきついときに、少しでも和らげることができるようにしていきたいです。」とお話があり、児童みんなで「よろしくお願いします。」とあいさつをして歓迎の気持ちを伝えました。

SCは、保護者の皆様からの相談も受け付けます。窓口は養護の土肥先生です。何かありましたら、遠慮なくご相談ください。

(TEL 232-2002)



紹介の時の様子

まつぼり風の夢